

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	西淀川
学 校 名	大阪市立歌島小学校
学校長名	三好 祐二

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
大阪市立歌島小学校 48人

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語・算数・理科とも全国平均・大阪市平均を下回る結果であった。

国語では、言葉の特徴や使い方、言語文化に関する事項に強みがみられる一方、情報の順序性や関係性を整理する力や読解力に課題がみられた。算数では、量の変化を倍数に表す項目に強みがみられる一方、図形の分類、操作、求積や、グラフ・表などのデータの読み取りに課題がみられた。理科では、水の性質や状態変化の項目に強みがみられる一方、発芽実験の条件制御や仮説を検証する思考・判断には課題がみられた。

児童質問紙調査では、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてください」について肯定的な回答が全国平均を上回っていた。一方、「自分には、よいところがあると思いますか」「人が困っているときは、進んで助けていますか」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか」について肯定的な回答が全国平均を下回っていた。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕漢字や言葉の文化、言葉の特徴や使い方は理解できている。漢字検定や読書タイムを継続してきた成果と推察する。一方、フロー図様に書き表された情報や資料の扱い、文の読解力、資料を参照して文を書く力に課題がみられた。漢字や語彙の理解・習得にとどまらず、長文の読み書きに集中して取り組める素地を身につけさせたい。また、高学年では思考を整理するための個別最適なメモの書き方を習得できるよう検討していきたい。

〔算数〕資料をもとに計算式をたてたり、倍数を導き出したりすることはできていた。一方、通分や約分をする計算、台形の定義や求積、作図のイメージ、グラフや表を読み取り分析する力に課題がみられた。算数への興味関心を高め、算数のよさを知る機会を設けられるよう新たな取組を検討したい。

〔理科〕水の状態変化の知識、実験の条件制御や結果の予想はできており、教科担当による仮説検証授業が定着している。一方、電気の性質や法則は未定着であった。条件制御の知識に関連づけた説明には課題があった。理科への興味関心を高め、思考を深めていこうとする態度を育てたい。

質問調査より

家庭にある本の冊数、読書習慣、学校が休みの日の勉強に関する質問の回答では、学習習慣が身に付きにくい児童が少なくないことが推測された。

また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「友達関係に満足していますか」に、ほとんどの児童が肯定的な回答であった。一方、「自分には、よいところがあると思いますか」「人が困っているときは、進んで助けていますか」には「あてはまらない」との回答が多かった。学校生活に満足している様子は伺えるものの自己効力感が懸念される児童もいる可能性が示唆される。互いを認め合い、助け合う、安全で安心な学校づくりをさらに推進していきたい。

今後の取組(アクションプラン)

学力向上に資する仕組みとして、学習習慣と学習規律の徹底が必須である。本校は朝8時30分の始業であるが、学校生活では習慣化できており各校時の合図もよく守られている。また、現在は1時限開始までの10分間を帯学習としている。今後の取り組みとして以下の2点を検討する。

① 朝の帯学習の充実

長文の音読、視写、聴写を繰り返すことで読み書きの速度を底上げし、学習効率を上げることで読解力と集中力を高める。

② 算数科の授業研究

教員一人一人の授業力向上のため、教科の系統的なつながりを重視し、指導形態の一般化を図る。
